

2. 地域で子どもを育てる住民の意識に関すること

(1) 各種団体との連携・協力による子どもの育成

子どもたちは、地域社会の中で大人と共に地域の行事や様々な活動に参加・参画することによって、地域社会の一員であることを自覚する。そこで、地域で子どもを育てていく意識を高め、各団体の特性を生かしながら、地域の教育力を発揮していく体制を整える必要がある。

① 各種団体の連携による子どもの活動の支援

各青少年団体・女性団体・高齢者団体・ボランティア団体・サークル等が、地域の子どもたちは地域で育てるといった共通の目的意識をもち、各団体の特性を生かしながら連携・協力の強化を図る。また、子ども地域活動指導者研修会等の実施により、学校支援ボランティア・体験活動支援ボランティア等の指導者の養成を図る。

② 総合型地域スポーツクラブ育成の推進

地域のスポーツ活動や地域の文化活動の一層の活性化を図るため、地域住民が主体となって活動する総合型地域スポーツクラブの育成が子どもを取り巻く環境の整備に有効なことから、学校の部活動・スポーツ少年団・その他のスポーツクラブ、また子どもに関わる芸術文化団体等と連携、協力のもと市町村の実態に応じ、中学校区程度でのクラブの育成を推進する。

(2) 地域住民の参加・参画による実践

まずは地域の大人同士の関係・交流を密にし、地域の大人が共通理解のもと一体となって地域の子どもたちを見守っていくことが大切である。そのためにも、「よいことは褒める」「悪いことは注意する」など地域の大人が子どもに対して普段から声をかけていくことから実践する。このことは、非行防止の一端を担うことにもなる。

① 「あいさつ運動」「一声運動」の実践

地域の人は皆関わりを持って生活していることを子どもに実感させるため、地域で出会う大人同士、子ども同士、また大人と子どもが互いにあいさつを交わし、時には子どもたちの行動に対して、褒めたり、注意したりする地域ぐるみでの「あいさつ運動」「一声運動」などを自治会等を中心に展開する。

② 地域行事への参加・参画の推奨

伝統芸能保存活動や地域の祭り・行事は、地域の大人が子どもたちとの関わりを深めるきっかけづくりとなる。そこに多くの大人が参加できるよう、内容や開催日時の工夫を図る。特に、子どもたちへの指導法など専門的な技能を持つ教職員は、一地域の住民として地域活動に主体的に参加・参画し、家庭や地域の教育力の向上に努める。